

科目コード	25103	区分	専門基礎科目	実務経験のある教員等による授業科目					
授業科目名	発育と発達	担当者名	田中 耕作/早田 剛	○					
		実務経験との関連	担当者の中で医療機器製造業会社での研究開発者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、幼少年期における身体の形態や機能が変わっていく発育と発達と老化についての基礎的知識を習得することを目的とする。

<授業の到達目標>

発育発達と老化の観点から、体力と運動能力、また運動発達の知識を身につける。また、その知識を（公財）日本スポーツ協会公認「ジュニア・スポーツ指導員」はじめ、体育・スポーツ指導者資格取得に繋げることを目的とする。

<授業の方法>

各テーマに沿った内容を資料やパワーポイントを用いて解説する。また、毎時間において、前時の講義内容について小テストを実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

日常の授業における実践的な態度および小テストを含む課題提出（70%）。また、最終講義を終えた上でのまとめのテスト（30%）を実施し、以上を総合的に評価する。

<教科書>

教科書は使用しないが、各單元ごとに資料を配布する。

（公財）日本スポーツ協会（2019）

公認ジュニアスポーツ指導員テキスト専門科目テキスト

（公財）日本スポーツ協会

杉原隆・河邊貴子（2014）

幼児期における運動発達と運動遊びの指導-遊びの中で子どもは育つ-

ミネルヴァ書房

<参考書>

（財）健康・体力づくり事業財団（2008）

健康運動指導士養成講習会テキスト

（財）健康・体力づくり事業財団

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	体力とは	体力と運動能力について
3	健康とは	健康に関する概念について
4	からだ（形態）の発育発達	発育発達期の身体の発達について
5	発育発達期におけるケガの実態	発育発達期に多いケガや病気について
6	発育発達期の運動プログラム	コーディネーションとは
7	動作の発達と体力測定①	幼児体力指針と新体力テスト
8	動作の発達と体力測定②	歩く・走る・跳ぶ
9	動作の発達と体力測定③	投げる・捕る・体を支える
10	運動発達の捉え方①	体力・運動能力の発達と遊びの効用
11	運動発達の捉え方②	運動発達における年齢と性差
12	運動発達の捉え方③	運動コントロール能力における年齢と性差
13	老化と生活習慣①	フレイルとは？
14	老化と生活習慣②	メタボリックシンドロームとロコモティブシンドローム
15	まとめ	全時限の講義内容のまとめ

科目コード	27104		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	基礎柔道整復学Ⅱ(骨折)		担当者名	坂本 賢広			○		
			実務経験との関連	柔道整復師としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

臨床で必要な骨折について発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について学ぶと共に保存療法の限界に関する知識を修得する。各骨折の発生メカニズムを詳細に理解する事が症状、整復法、固定法、合併症等を合理的に理解することになる。この講義では頭部顔面骨折・胸骨骨折・肋骨骨折・脊椎骨折・前腕遠位端部骨折・手根骨骨折・中手骨骨折・指骨骨折について学習する。

<授業の到達目標>

各骨折の発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について理解する各骨折における保存療法の限界について理解する。

<授業の方法>

教科書を中心に講義し、必要に応じて資料を配付する。確認小テストを実施し、予習、復習状況を確認する。動画や資料については必要に応じてDropboxやGoogle classroomにて配信する。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習意欲30% 小テスト20% 評価試験50%

<教科書>

全国柔道整復学校協会監修
柔道整復学・理論編 改訂第7版
南江堂
全国柔道整復学校協会監修
柔道整復学・実技編 改訂第2版
南江堂

目崎 登監修
運動器疾患ワークブック
医歯薬出版

<参考書>

標準整形外科学
医学書院

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	頭部・顔面骨折	頭蓋骨骨折 眼窩底破裂骨折
2	頭部・顔面骨折	上顎骨骨折 頬骨および頬骨弓骨折
3	頭部・顔面骨折	鼻骨骨折・鼻軟骨骨折及び下顎骨骨折
4	胸骨骨折	胸骨骨折(胸骨柄部・体部・剣状突起部)
5	肋骨骨折	肋骨骨折及び肋軟骨骨折
6	脊椎骨折	頸椎・胸椎・腰椎骨折
7	前腕遠位端部骨折	コーレス骨折
8	前腕遠位端部骨折	スミス骨折 パートン骨折 ショーファー骨折
9	手根骨骨折	舟状骨骨折
10	手根骨骨折	その他の手根骨
11	中手骨骨折	中手骨骨折
12	中手骨骨折	その他中手骨骨折
13	指骨骨折	基節骨・中節骨骨折
14	指骨骨折	マレットフィンガー・末節骨骨折
15	まとめ	総合評価

科目コード	27200	区分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	病理学 I	担当者名	高島 清文			○			
		実務経験との関連	現職の歯科医としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

正常人体構造をベースに疾病の原因、経過、本態など病的状態における細胞・組織・臓器などの変化を形態学的・病態生理学的に探求する学問である。肉眼的・顕微鏡的形態変化を基盤に疾病の本態、発症メカニズム、経過などについて理解し、内的・外的因子の影響などについて学習する。

<授業の到達目標>

1 病理学の役目を理解する。1 臓器・組織・細胞の退行性・進行性病変を習得する。1 充血、うっ血、梗塞などの循環障害が理解できる。1 炎症・免疫の本態と疾患が理解できる。

<授業の方法>

パワーポイント、配布資料を中心に使用して、板書、質問等を取り入れ視覚聴覚的に講義をすすめる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 100%

<教科書>

社団法人全国柔道整復学協会 監修・関根一郎 著

「病理学概論 改訂第3版」

医歯薬出版株式会社

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	病理学とは	病理学とは何か、病理学における観察方法
2	疾病の一般	疾病・症候の意義と分類、疾病の経過
3	細胞障害（退行性病変）Ⅰ	萎縮と変性
4	細胞障害（退行性病変）Ⅱ	代謝障害と疾病
5	細胞障害（退行性病変）Ⅲ	壊死、死
6	循環障害Ⅰ	血液の循環障害
7	循環障害Ⅱ	血栓症・塞栓症
8	循環障害Ⅲ	リンパ液の循環障害、高血圧症
9	進行性病変Ⅰ	肥大、過形成、化生
10	進行性病変Ⅱ	創傷治癒、移植
11	炎症Ⅰ	炎症の一般
12	炎症Ⅱ	炎症の分類
13	免疫、アレルギーⅠ	免疫の仕組み
14	免疫、アレルギーⅡ	免疫不全・自己免疫疾患
15	免疫、アレルギーⅢ	アレルギーの分類

科目コード	27202		区分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	基礎柔道整復学Ⅲ(脱臼)		担当者名	畑島 紀昭			○		
			実務経験との関連	柔道整復師、鍼灸師としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

臨床に必要な脱臼について発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について学ぶと共に保存療法の限界に関する知識を修得する。各脱臼の発生メカニズムを詳細に理解する事が症状、整復法、固定法、合併症等を合理的に理解することになる。この講義では顎関節、脊椎、肩鎖関節、肩関節、肘関節、手関節、手指関節について学習する。

<授業の到達目標>

各脱臼の発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について理解する。各脱臼における保存療法の限界について理解する。

<授業の方法>

教科書を中心に講義し必要に応じてDropboxにて資料を配付する。授業中に確認小テストを実施し、予習、復習状況を確認する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、小テスト 30%、定期試験 40%

<教科書>

全国柔道整復学校協会
「柔道整復学・理論編」
南江堂

全国柔道整復学校協会
「柔道整復学・実技編」
南江堂

<参考書>

目崎 登
「運動器疾患ワークブック」
医歯薬出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	脱臼総論	定義と概説
2	顎関節脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
3	頸椎脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
4	胸椎脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
5	肩鎖関節脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
6	肩関節脱臼-前方・後方-	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
7	肩関節脱臼-下方・上方-	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
8	肘関節脱臼-両骨-	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
9	肘関節脱臼-単独・肘内障-	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
10	手関節脱臼-関節-	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
11	手関節脱臼-手根骨-	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
12	手指脱臼-CM関節-	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
13	手指脱臼-MP-	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
14	手指脱臼-DIP・PIP-	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
15	まとめ	総説

科目コード	27302		区 分	専門基礎科目		実務経験のある教員等による授業科目				
授業科目名	柔道整復解剖生理演習 I		担当者名	畑島 紀昭		○				
			実務経験との関連	柔道整復師、鍼灸師としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	演習	卒業要件	必修	

<授業の概要>

解剖学、生理学では人体の正常構造として骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官について系統的に学習し、これらの器官系が立体的に配置することによって人体が形成されていることを理解し、各器官内あるいは各器官系がどのように連鎖して働くことにより、生命徴候が営まれているのかを修得した。本演習ではこれらの解剖学、生理学分野の中でも、特に柔道整復師業務に重要である上肢・体幹の骨格系、筋系、神経系、脈管系、免疫系、呼吸器系について特化して修得する。

<授業の到達目標>

柔道整復解剖生理演習 I では、筋骨格系、神経系、脈管系および関節などのいわゆる運動器を中心に、臨床現場で遭遇する種々の外傷および合併症などを適切に評価することができるようになるために、解剖学、生理学の観点より、各諸器官の構造と機能について学習する。

<授業の方法>

教科書及び配布資料による講義及びグループ学習を用いた討論形式、演習問題で進める。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 50%、小テスト 50%

<教科書>

全国柔道整復学校協会監修

解剖学

医歯薬出版

全国柔道整復学校協会監修

生理学

南江堂

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	症例1	上肢帯損傷①
2	症例2	上肢帯損傷②
3	症例3	上肢損傷①
4	症例4	上肢損傷②
5	症例5	上肢損傷③
6	症例6	頸部損傷
7	振り返り 1	上肢帯・上肢損傷・頸部損傷まとめ①
8	振り返り 2	上肢帯・上肢損傷・頸部損傷まとめ②
9	症例7	体幹損傷①
10	症例8	体幹損傷②
11	症例9	神経損傷
12	症例10	内臓損傷①
13	症例11	内臓損傷②
14	振り返り 3	解剖生理学のまとめ①
15	振り返り 4	解剖生理学のまとめ②

科目コード	27203		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	基礎柔道整復学Ⅳ(捻挫)		担当者名	坂本 賢広			○		
			実務経験との関連	柔道整復師としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	柔道整復師養成施設必修科目

<授業の概要>

捻挫における発生機序、症状、治癒形態といった概要について機能解剖学、生理学、運動学的視点より学習する。各論においては顎関節、頸部（胸部も含む）、腰部で生じる捻挫について学習する。

<授業の到達目標>

捻挫は臨床現場で関わることが多い運動器疾患の一つである。捻挫を生じる組織の種類、症状、治癒機序等について機能解剖学、生理学、運動学的視点より理解し、論理的思考を習熟させることを目標とする。また、競技者の外傷予防の概論について理解し、アスレティックトレーナー実習等における理論的背景について理解することを目標とする。

<授業の方法>

冒頭に前回の授業範囲から小テストを実施する。動画や資料については必要に応じてGoogle classroomなどで配信する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲30% 小テスト20% 評価試験50%

<教科書>

全国柔道整復学校協会（2022）
 柔道整復学・理論編 改訂第7版
 南江堂
 全国柔道整復学校協会（2016）
 柔道整復学・実技編 改訂第2版
 南江堂
 全国柔道整復学校協会（2020）
 競技者の外傷予防
 医歯薬出版株式会社

<参考書>

全国柔道整復学校協会（2020）
 整形外科学 改訂第4版
 南江堂

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	運動生理学の概要（1）	運動が生体に与える影響運動とエネルギー代謝
2	運動生理学の概要（2）	運動と骨・筋肉運動と呼吸・循環
3	運動生理学の概要（3）	運動とホルモン競技者の運動生理学的特徴
4	競技者の外傷予防（概論）（1）	競技者の外傷予防の概要外傷の発生要因
5	競技者の外傷予防（概論）（2）	外傷の予防対策
6	頸部捻挫（1）	頸部周囲組織（神経）の確認
7	頸部捻挫（2）	寝違え、むちうち損傷
8	頸椎部の神経損傷（1）	外傷性腕神経叢麻痺、副神経麻痺
9	頸椎部の神経損傷（2）	長胸神経、分娩麻痺、頸髄損傷（総論）
10	頸部の疾患（1）	頸椎症、頸椎椎間板ヘルニア
11	頸部の疾患（2）	胸郭出口症候群
12	腰部捻挫（1）	腰部周囲組織の確認、腰痛症
13	腰部捻挫（2）	腰椎椎間板ヘルニア、脊椎分離すべり症
14	腰部捻挫（3）	変形性脊椎症（腰部脊柱管狭窄症）、梨状筋症候群
15	まとめ	総合評価

科目コード	36505	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	検査・測定と評価 I	担当者名	江波戸 智希			○			
		実務経験との関連	プロスポーツチームのアカデミー、高校・大学の部活動のフィジカルコーチとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

体力や身体機能の評価を進める上で必要となる検査測定手技について、その目的と意義を理解し、具体的に実技できるまでの能力を習得することをねらいとする。尚、本授業は一部オンデマンド教材等使用し行うため、PCまたはタブレットを準備の上、履修すること。

<授業の到達目標>

体力や身体機能の評価についてその意義と考え方を学び、具体的な評価による問題点の抽出までのプロセスを理解し、実践できる能力が身につくようになることを目標とする。

<授業の方法>

予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。各テーマに対してグループワーク・ディスカッションを行う。オンデマンド資料提示や課題の提示、提出等はGoogle Classroomで行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，最終課題・発表（最終課題，発表） 40%

<教科書>

特になし

<参考書>

公益財団法人日本スポーツ協会（2007年9月30日）

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑤・検査・測定と評価」

（公財）日本スポーツ協会

（財）健康・体力づくり事業財団（2008）

健康運動指導士養成講習会テキスト<下>

（財）健康・体力づくり事業財団

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション及び総論	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	スポーツ現場やトレーナーにおける検査・測定と評価の概論（1）	評価の目的、意義および役割、機能評価のプロセス
3	スポーツ現場やトレーナーにおける検査・測定と評価の概論（2）	機能評価に基づくアスレティックリハビリテーションおよびコンディショニングの目標設定、プログラム立案
4	検査・測定の手法（1）	姿勢・身体アライメント、筋萎縮の観察、計測の目的と意義、計測方法
5	検査・測定の手法（2）	関節弛緩性検査の目的と意義およびその検査測定
6	検査・測定の手法（3）	関節可動域測定の目的と意義および測定方法
7	検査・測定の手法（4）	筋タイトネスの検査測定方法
8	検査・測定の手法（5）	徒手筋力検査の目的と意義およびその検査方法
9	検査・測定の手法（6）	機器を用いた筋力、筋パワーおよび筋持久力の検査測定の目的と意義およびその検査測定方法
10	検査・測定の手法（7）	全身持久力の検査測定の目的と意義およびその具体的手法と測定指標
11	検査・測定の手法（8）	敏捷性および協調性の検査測定の目的と意義およびその具体的手法
12	検査・測定の手法（9）	身体組成の検査測定の目的と意義およびその具体的手法
13	検査・測定の手法（10）	一般的な体力測定（新体力テスト）の検査項目とその目的と概要
14	検査・測定の手法（11）	一般的な体力測定（高齢者、幼児期）の検査項目とその目的と概要
15	まとめ	検査・測定方法に関する総合討議

科目コード	36506	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	検査・測定と評価Ⅱ	担当者名	江波戸 智希			○			
		実務経験との関連	プロスポーツチームのアカデミー、高校・大学の部活動のフィジカルコーチとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、評価におけるスポーツ動作の観察・分析の目的と意義、6つのスポーツ動作（歩行動作、走動作、ストップ・方向転換動作、跳躍動作、投動作、あたり動作）に関するそれぞれのバイオメカニクスおよび動作に影響をあたえる機能的と体力的要因、さらに外傷・障害の発生機転となるスポーツ動作の特徴とメカニズムについて学習する。尚、本授業は一部オンデマンド教材等使用し行うため、PCまたはタブレットを準備の上、履修すること。

<授業の到達目標>

アスレティックトレーナーが評価を進める上で必要となるスポーツ動作の観察・分析について、その目的と意義を理解し、6つの基本動作についてそのバイオメカニクス、動作に影響を与える機能的および体力的要因を説明できるようになることを目標とする。

<授業の方法>

予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。各テーマに対してグループワーク・ディスカッションを行う。オンデマンド資料提示や課題の提示、提出等はGoogle Classroomで行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%（出席評価、授業への積極的な参加）、課題レポート（適宜出される課題、最終レポート）70%

<教科書>

公益財団法人日本スポーツ協会（2007年9月30日）

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑤・検査・測定と評価」

（公財）日本スポーツ協会

<参考書>

指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	スポーツ動作の観察と分析(1)	評価におけるスポーツ動作の観察・分析の目的と意義
2	スポーツ動作の観察と分析(2)	歩行動作のバイオメカニクス
3	スポーツ動作の観察と分析(3)	歩行動作に影響する要因
4	スポーツ動作の観察と分析(4)	走動作のバイオメカニクス
5	スポーツ動作の観察と分析(5)	走動作に影響を与える機能的、体力的要因外傷の発生機転となるような走動作の特徴とメカニズム
6	スポーツ動作の観察と分析(6)	ストップ・方向転換動作のバイオメカニクス
7	スポーツ動作の観察と分析(7)	ストップ・方向転換動作に影響をあたえる機能的、体力的要因外傷の発生機転となるようなストップ・方向転換動作の特徴とメカニズム
8	スポーツ動作の観察と分析(8)	跳動作のバイオメカニクス
9	スポーツ動作の観察と分析(9)	跳動作に影響をあたえる機能的、体力的要因外傷の発生機転となるような跳動作の特徴とメカニズム
10	スポーツ動作の観察と分析(10)	投動作のバイオメカニクス
11	スポーツ動作の観察と分析(11)	投動作に影響をあたえる機能的、体力的要因外傷の発生機転となるような投動作の特徴とメカニズム
12	スポーツ動作の観察と分析(12)	あたり動作のバイオメカニクス
13	スポーツ動作の観察と分析(13)	あたり動作に影響をあたえる機能的、体力的要因外傷の発生機転となるようなあたり動作の特徴とメカニズム
14	まとめ(1)	総合学習
15	まとめ(2)	スポーツ動作の観察・分析に関する総合討議

科目コード	62008	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	健康管理とスポーツ医学 [PP/PH用]	担当者名	河合 洋二郎			○			
		実務経験との関連	現職の内科医・スポーツドクターとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

アスリートにみられる内臓器官などの疾患では、疾患の病態、症状、対応策、処置、予防措置について理解させること。感染症に対する対応策では、スポーツ現場および海外遠征時に注意すべき感染症の種別、病態、症状、対応策、処置、予防策について理解させること。

<授業の到達目標>

アスリートにみられる病的現象では、病的現象（オーバートレーニング症候群、突然死、過換気症候群など）の病態、症状、原因などを理解させるとともに、それらに対する対抗策、処置、予防措置について学ぶことをねらいとする。この他、スポーツ選手にみられる摂食障害、減量障害、飲酒、喫煙などの問題点について学ぶことをねらいとする。特殊環境のスポーツ医学では、高所、低圧、高圧、暑熱環境などでの運動時における生体反応、順応、そしてそれらの環境下での障害について学ぶことをねらいとする。年齢・性別による特徴では、女性、高齢者、発育

<授業の方法>

教科書を基に、必要に応じて資料を配布して講義を進めていく。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 100%

<教科書>

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト④ 健康管理とスポーツ医学」

日本体育協会

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (1)	循環器系疾患（スポーツ心臓、不整脈、虚血性心疾患、Marfan症候群など）呼吸器系疾患（慢性肺疾患、運動誘発性喘息など）
2	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (2)	消化器系疾患（運動時の腹痛、消化管出血、下痢、急性肝炎など）血液疾患（貧血など）皮膚疾患（胼胝腫、摩擦水疱、白癬など）
3	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (3)	腎・泌尿器疾患（運動性蛋白尿、ヘモグロビン尿、ミオグロビン尿など）代謝性疾患（糖質代謝異常、脂質代謝異常、糖尿病、肥満など）
4	感染症に対する対応策 (1)	呼吸器感染症（上気道感染症、インフルエンザ、伝染性単核球症、重症急性呼吸器症候群など）血液感染症（A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎、HIV免疫不全ウイルスなど）
5	感染症に対する対応策 (2)	皮膚感染症（細菌感染症、真菌感染症、ウイルス感染症など）ウイルス性結膜炎（咽頭結膜炎など）
6	感染症に対する対応策 (3)	海外遠征時に注意すべき感染症（SARS、マラリア、旅行者下痢症、デング熱など）各競技別ルールにみられる感染症対策
7	アスリートにみられる病的現象など (1)、小テスト	オーバートレーニング症候群・突然死・過換気症候群、小テスト
8	アスリートにみられる病的現象など (2)	摂食障害・減量障害・飲酒・喫煙の問題点
9	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴 (1)	（生体の反応と順応、各環境でみられる障害とその処置、予防方法など）時差（時差に対する反応と順応、時差に対する対策）
10	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴 (2)	海外遠征時の諸問題（健康管理、環境管理、その他）
11	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴 (3)	女性のスポーツ医学、高齢者のスポーツ医学、成長期のスポーツ医学
12	内科的メディカルチェック (1)	メディカルチェックの意義と必要性・対象別メディカルチェックの内容。メディカルチェックにおける検査項目
13	内科的メディカルチェック (2)	運動負荷試験の目的と方法・運動負荷試験の実際。運動負荷試験結果の判定基準。
14	ドーピングコントロール	アンチドーピングの目的、ドーピングの定義、禁止される物質の種類。注意すべき市販薬、事前申告を必要とする薬物、ドーピング・コントロール・ステーション同伴時の留意事項。
15	まとめ	まとめ

科目コード	3F104		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	臨床柔道整復学 I (骨折 I)		担当者名	畑島 紀昭			○		
			実務経験との関連	柔道整復師、鍼灸師としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

臨床に必要な骨折について発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について学ぶと共に保存療法の限界に関する知識を修得する。各骨折の発生メカニズムを詳細に理解する事が症状、整復法、固定法、合併症等を合理的に理解することになる。この講義では鎖骨骨折、肩甲骨骨折、上腕骨骨折、前腕骨骨折について学習する。

<授業の到達目標>

各骨折の発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について理解する各骨折における保存療法の限界について理解する。

<授業の方法>

教科書を中心に講義し必要に応じてDropboxにて資料を配付する。授業中に確認小テストを実施し、予習、復習状況を確認する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、小テスト 30%、評価試験 40%

<教科書>

全国柔道整復学校協会
柔道整復学・理論編
南江堂
全国柔道整復学校協会
柔道整復学・実技編
南江堂

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	鎖骨骨折（1）	鎖骨骨折（中央）における概要、発生機序、症状、合併症、整復法、固定法について
2	鎖骨骨折（2）	鎖骨骨折（近位および遠位）における概要、発生機序、症状、合併症、整復法、固定法について
3	肩甲骨骨折（1）	肩甲骨骨折（肩甲骨体部骨折、肩甲骨辺縁部骨折、肩甲骨関節窩骨折）における概要、分類、発生機序、症状、合併症、治療法について
4	肩甲骨骨折（2）	肩甲骨骨折（肩甲骨頸部骨折、肩峰骨折、烏口突起骨折）における概要、分類、発生機序、症状、合併症、治療法について
5	上腕骨近位端部骨折（1）	結節上骨折（上腕骨骨頭骨折、解剖頸骨折）における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
6	上腕骨近位端部骨折（2）	結節下骨折（外科頸骨折、大結節骨折、小結節骨折、結節部貫通骨折）、骨端線離開における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
7	上腕骨骨幹部骨折（1）	上腕骨骨幹部骨折における概要、発生機序、転位について
8	上腕骨骨幹部骨折（2）	上腕骨骨幹部骨折における症状、合併症、整復法、固定法について
9	上腕骨遠位端部骨折（1）	上腕骨顆上骨折における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
10	上腕骨遠位端部骨折（2）	上腕骨外顆骨折、上腕骨内側上顆骨折における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
11	前腕骨近位端部骨折（1）	橈骨近位端部骨折（橈骨頭骨折、橈骨頸部骨折）における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
12	前腕骨近位端部骨折（2）	尺骨近位端部骨折（肘頭骨折、尺骨鉤上突起骨折）における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
13	前腕骨骨幹部骨折（1）	橈骨骨幹部骨折、尺骨骨幹部骨折、橈・尺両骨骨幹部骨折における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
14	前腕骨骨幹部骨折（2）	前腕骨脱臼骨折（モンテジア脱臼骨折、ガレアッツィ脱臼骨折）における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
15	まとめ	授業の総合評価を行う。

科目コード	3F204		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅱ(骨折Ⅱ)		担当者名	簧戸 崇史			○		
			実務経験との関連	柔道整復師、鍼灸師としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

下肢はヒトとしての特徴である2本足で移動するという点で、社会生活上、重要な支持組織である。本科目は、骨盤、大腿部、膝部、下腿部、足部の下肢における骨折の発生機序、症状、治療法について機能解剖学、生理学、運動学的視点より学修する。

<授業の到達目標>

1. 下肢の機能解剖について理解し、骨折の発生機序、症状を説明できる。2. 骨折の状態から治療指針について判断することができる。

<授業の方法>

1. 講義（教員による指定疾患の解説）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験90%, 学習意欲10%

<教科書>

柔道整復学校協会
柔道整復学・理論編
南江堂

<参考書>

小林直行 監修
柔道整復師国家試験重要問題 柔道整復学下肢・総論
医歯薬出版株式会社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	骨盤骨単独骨折（1）	腸骨翼単独骨折、恥骨単独骨折、坐骨単独骨折、仙骨単独骨折、尾骨単独骨折における概要、発生機転、症状、治療法について
2	骨盤骨単独骨折（2）	腸骨稜裂離骨折、上前腸骨棘裂離骨折、下前腸骨棘裂離骨折における概要、発生機転、症状、治療法について
3	骨盤骨輪骨折	骨盤骨輪骨折における概要、発生機転、症状、治療法について
4	大腿骨近位端骨折（1）	大腿骨骨頭骨折、大腿骨頸部骨折における概要、発生機転、症状、治療法について
5	大腿骨近位端骨折（2）	大腿骨転子部骨折、大腿骨大転子単独骨折、大腿骨小転子単独骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
6	大腿骨骨幹部骨折	大腿骨骨幹部骨折（上1/3、中1/3、下1/3）における特徴、発生機転、症状、治療法について
7	大腿骨遠位端部骨折（1）	大腿骨顆上骨折、大腿骨遠位骨端線離解における概要、発生機転、症状、治療法について
8	大腿骨遠位端部骨折（2）	大腿骨顆部骨折、内側側副韌帯付着部剥離骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
9	膝蓋骨骨折	膝蓋骨骨折、分裂膝蓋骨における特徴、発生機転、症状、治療法について
10	下腿骨近位端骨折（1）	脛骨顆部骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
11	下腿骨近位端骨折（2）	脛骨顆間隆起骨折、脛骨粗面骨折、腓骨頭単独骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
12	下腿骨幹部骨折	脛骨単独骨折、脛腓両骨骨折、腓骨骨幹部単独骨折、下腿骨果上骨折、下腿疲労骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
13	下腿骨遠位端骨折	下腿骨果部骨折、足関節脱臼骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
14	足根骨骨折	距骨骨折、踵骨骨折、舟状骨骨折、立方骨骨折、楔状骨骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
15	足趾骨骨折	中足骨骨折、他の足趾骨骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について

科目コード	3F300		区分	コア			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	病理学Ⅱ		担当者名	高島 清文			○		
			実務経験との関連	現職の歯科医としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	講義

<授業の概要>

正常人体構造をベースに疾病の原因、経過、本態など病的状態における細胞・組織・臓器などの変化を形態学的・病態生理学的に探求する学問である。肉眼的・顕微鏡的形態変化を基盤に疾病の本態、発症メカニズム、経過などについて理解し、内的・外的因子の影響などについて学習する。

<授業の到達目標>

1 腫瘍の本態、発生原因、分類。治療の概略を習得する。1 奇形を含む先天性異常の発生原因と種類が理解できる。1 内因・外因を含め病因を知り、その対処方法が理解できる。

<授業の方法>

パワーポイント、配布資料を中心に使用して、板書、質問等を取り入れ視覚聴覚的に講義をすすめる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 100%

<教科書>

社団法人全国柔道整復学協会 監修、関根一郎 著

「病理学概論 改訂第3版」

医歯薬出版株式会社

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	腫瘍Ⅰ	腫瘍とは
2	腫瘍Ⅱ	腫瘍細胞とは
3	腫瘍Ⅲ	腫瘍の生体への影響、癌の診断と治療
4	腫瘍Ⅳ	腫瘍の分類
5	腫瘍Ⅴ	主要な癌
6	先天性異常Ⅰ	先天性異常総論、遺伝形式
7	先天性異常Ⅱ	奇形の原因、奇形の種類
8	病因Ⅰ	内因1
9	病因Ⅱ	内因2
10	病因Ⅲ	物理的原因
11	病因Ⅳ	化学的原因
12	病因Ⅴ	生物学的原因
13	運動器の病理Ⅰ	感染性の疾患
14	運動器の病理Ⅱ	非感染性疾患
15	運動器の病理Ⅲ	全身性の骨・軟部疾患

科目コード	3F301		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	整形外科学 I		担当者名	石原 和泰			○		
			実務経験との関連	現職の整形外科医としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義は、整形外科学総論にあたる部分である。すなわち、整形外科の意義と歴史、運動器の基礎知識、整形外科診察法、整形外科検査法、整形外科的治療法、骨・関節損傷総論、スポーツ整形外科総論、リハビリテーション総論と柔道整復学との関連性について学習する。

<授業の到達目標>

健康の保持・増進、競技力向上を科学的に考える上で不可欠な医科学的な分野（特に整形外科的分野）についての知識を身に付ける。そして医師をはじめとするメディカル・コメディカルスタッフ、コーチ、トレーナーと共通の認識、共通の言語をもって話しが出来ることを目標とする。

<授業の方法>

概ねスライドを使って講義を行う。授業理解度の確認としてミニツツペーパーを有効的に用い、学生、教員間で理解度を共有し学習内容の確実な定着に繋げる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

（評価方法）定期試験 90点、出席点 10点の100点満点とする。出席点は1回の欠席ごとに2点の減点とする。試験時はノートの持ち込みは認めない。（出欠確認）出席の確認は講義冒頭の点呼により行う。点呼に間に合わなかった者は講義終了時に申し出ること。（欠席届の取り扱いについて）当該講義のテーマに即したレポートを提出すること。レポートの提出期限は欠席した月の翌月末までとする。（それ以降は受理しない）レポートの提出により出席点を与える。（公欠の取り扱いについて）学則に則る。（その他）講義資料の再配布は行わないので

<教科書>

全国柔道整復学校協会 監修

「整形外科学」

南江堂

<参考書>

松野 丈夫 監修

「標準整形外科学」第13版

医学書院

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	骨系統疾患、神経筋疾患 (1)	骨の構造・病理、骨系統疾患、神経筋疾患 (1)
2	骨系統疾患、神経筋疾患 (2)	骨の構造・病理、骨系統疾患、神経筋疾患 (2)
3	運動器に発生する感染症 (1)	骨・関節・軟部組織感染症 (1)
4	運動器に発生する感染症 (2)	骨・関節・軟部組織感染症 (2)
5	整形外科疾患 (1)	上肢の整形外科疾患 (1)
6	整形外科疾患 (2)	上肢の整形外科疾患 (2)
7	整形外科疾患 (3)	骨盤・股関節・大腿骨の外傷 (1)
8	整形外科疾患 (4)	骨盤・股関節・大腿骨の外傷 (2)
9	整形外科疾患 (5)	小児の整形外科的外傷 (1)
10	整形外科疾患 (6)	小児の整形外科的外傷 (2)
11	整形外科疾患 (7)	小児の整形外科的外傷 (3)
12	整形外科疾患 (8)	小児の整形外科的外傷 外傷以外 (1)
13	整形外科疾患 (9)	小児の整形外科的外傷 外傷以外 (2)
14	整形外科疾患 (10)	小児の整形外科的外傷 外傷以外 (3)
15	まとめ	総括

科目コード	3F307	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	臨床柔道整復学V(軟部組織I)	担当者名	小玉 京士朗			○			
		実務経験との関連	柔道整復師としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

近年、柔道整復業務において軟部組織損傷を扱う頻度は高くなっており、業務において重要な位置付けとなっている。本科目では上肢の軟部組織損傷を大きく肩及び上腕部、肘及び前腕部、手関節及び手指部に分類し、それぞれの部位において機能解剖を学習した上で損傷のメカニズム、症状、合併症、治療法、保存療法の限界、後療法等について学修する。

<授業の到達目標>

1. 上肢の軟部組織損傷の疾患概要について説明ができる。
2. 他の疾患との鑑別し、処置方法を判断することができる。

<授業の方法>

1. 講義（教員による疾患に対する説明）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験90%, 学習意欲10%

<教科書>

全国柔道整復学校協会 監修(2022年3月15日)

「柔道整復学・理論編（改訂第7版）」

南江堂

全国柔道整復学校協会 監修(2013年12月20日)

「柔道整復学・実技編（改訂第2版）」

南江堂

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション 肩部及び上腕部の軟部組織損傷(1)	授業ガイダンス、腱板断裂
2	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(2)	上腕二頭筋長頭腱損傷、ベネット損傷
3	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(3)	SLAP損傷、インピンジメント症候群
4	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(4)	野球肩、loose shoulder
5	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(5)	肩甲上神経絞扼、五十肩、石灰性腱炎、変形性肩関節症
6	肘部及び前腕部の軟部組織損傷(1)	肘側副靭帯損傷、野球肘、テニス肘
7	肘部及び前腕部の軟部組織損傷(2)	前腕コンパートメント、肘関節後外側不安定症
8	肘部及び前腕部の軟部組織損傷(3)	正中神経障害、橈骨神経障害
9	肘部及び前腕部の軟部組織損傷(4)	尺骨神経障害、パンナー病、変形性肘関節症
10	手関節及び手指部の軟部組織損傷(1)	TFCC損傷、手根管症候群
11	手関節及び手指部の軟部組織損傷(2)	ギヨン管症候群、キーンベック病
12	手関節及び手指部の軟部組織損傷(3)	マーデルング変形、腱交叉症候群、ド・ケルバン病
13	手関節及び手指部の軟部組織損傷(4)	側腹靭帯損傷、ロッキングフィンガー、ばね指
14	手関節及び手指部の軟部組織損傷(5)	デュブイトラン拘縮、ヘバーデン結節、ボタン穴変形、スワンネック変形
15	まとめ	総合復習、総合討議

科目コード	3F302		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	整形外科科学Ⅱ		担当者名	石原 和泰			○		
			実務経験との関連	現職の整形外科医としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義は、整形外科科学各論にあたる部分である。すなわち、整形外科身体部位別各論と柔道整復学との関連性について学習する。

<授業の到達目標>

健康の保持・増進、競技力向上を科学的に考える上で不可欠な医科学的な分野（特に整形外科的分野）についての知識を身に付ける。そして医師をはじめとするメディカル・コメディカルスタッフ、コーチ、トレーナーと共通の認識、共通の言語をもって話しが出来ることを目標とする。

<授業の方法>

概ねスライドを使って講義を行う。授業理解度の確認としてミニツッペーパーを有効的に用い、学生、教員間で理解度を共有し学習内容の確実な定着に繋げる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

（評価方法）定期試験 90点、出席点 10点の100点満点とする。出席点は1回の欠席ごとに2点の減点とする。試験時はノートの持ち込みは認めない。（出欠確認）出席の確認は講義冒頭の点呼により行う。点呼に間に合わなかった者は講義終了時に申し出ること。（欠席届の取り扱いについて）当該講義のテーマに即したレポートを提出すること。レポートの提出期限は欠席した月の翌月末までとする。（それ以降は受理しない）レポートの提出により出席点を与える。（公欠の取り扱いについて）学則に則る。（その他）講義資料の再配布は行わないので

<教科書>

全国柔道整復学校協会 監修
「整形外科科学」
南江堂

<参考書>

松野 丈夫 監修
「標準整形外科科学」第13版
医学書院

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	身体部位別各論 (1)	頸部 (1)
2	身体部位別各論 (2)	頸部 (2)
3	身体部位別各論 (3)	胸部
4	身体部位別各論 (4)	腰部 (1)
5	身体部位別各論 (5)	腰部 (2)
6	身体部位別各論 (6)	肩・肩甲帯
7	身体部位別各論 (7)	上腕・肘関節
8	身体部位別各論 (8)	前腕
9	身体部位別各論 (9)	手関節
10	身体部位別各論 (10)	手・手指
11	身体部位別各論 (11)	骨盤・股関節
12	身体部位別各論 (12)	大腿・膝関節
13	身体部位別各論 (13)	下腿・足関節
14	身体部位別各論 (14)	足・足趾
15	まとめ	総括

科目コード	36300	区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	病理学	担当者名	石原 和泰			○			
		実務経験との関連	現職の整形外科医としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

解剖学、生理学で学んだ正常人体の構造、機能の理解のうえに病的状態における形態変化及び病態生理を講義する。講義前半は疾病により出現する種々の病理現象を総論として解説、後半は各臓器ごとに代表的な疾患を取り上げ、その形態変化、病態生理を解説する。

<授業の到達目標>

将来、人の健康保持、増進に関与していく可能性のある学生に対して、炎症、アレルギーなどの基本的な病理現象のメカニズムについて理解ができるとともに、各臓器の代表的な疾患に対するより専門的な病理学的変化について説明ができることを目標とする。

<授業の方法>

概ねスライドを使って講義する。スライドのレジュメは各回授業の最初に配布する。※参考書は全員購入すること。授業理解度の確認として適宜小テストを行い、学生、教員間で理解度を共有し学習内容の確実な定着に繋げる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

（評価方法）定期試験 90点、出席点 10点の100点満点とする。出席点は1回の欠席ごとに2点の減点とする。試験時はノートの持ち込みは認めない。（出欠確認）出席の確認は講義冒頭の点呼により行う。点呼に間に合わなかった者は講義終了時に申し出ること。（欠席届の取り扱いについて）当該講義のテーマに即したレポートを提出すること。レポートの提出期限は欠席した月の翌月末までとする。（それ以降は受理しない）レポートの提出により出席点を与える。（公欠の取り扱いについて）学則に則る。（その他）講義資料の再配布は行わないので

<教科書>

桜井 修 監修
「新病理学（Qシリーズ）」
日本医事新報社

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	序論	病理学とは
2	病理学総論 (1)	細胞・組織とその障害
3	病理学総論 (2)	再生と修復、退行性病変
4	病理学総論 (3)	循環障害
5	病理学総論 (4)	炎症
6	病理学総論 (5)	免疫とアレルギー
7	病理学総論 (6)	代謝異常
8	病理学総論 (7)	腫瘍
9	病理学各論 (1)	循環器系の病理
10	病理学各論 (2)	呼吸器系の病理
11	病理学各論 (3)	内分泌系・造血器系の病理
12	病理学各論 (4)	腎・尿路系の病理
13	病理学各論 (5)	生殖器系の病理
14	病理学各論 (6)	運動器系および脳・神経系の病理
15	まとめ	

科目コード	3F308		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	臨床柔道整復学VI(軟部組織II)		担当者名	小玉 京士朗			○		
			実務経験との関連	柔道整復師としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

柔道整復業務において軟部組織損傷を扱う頻度は近年益々高くなっており、業務において重要な位置づけとなっている。本講義では下肢の軟部組織損傷を大きく股関節部、大腿部、膝部、下腿部、足関節部、足部に分類し、それぞれの部位において機能解剖を学習した上で損傷のメカニズム、症状、合併症、治療法、保存療法の限界、後療法等について学習する。

<授業の到達目標>

各損傷のメカニズム、症状、合併症、治療法、保存療法の限界、後療法等について説明ができる。

<授業の方法>

1. 教科書を中心とした講義

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

評価試験90%，学習意欲10%

<教科書>

全国柔道整復学校協会監修
 柔道整復学・理論編
 南江堂
 全国柔道整復学校協会監修
 柔道整復学・実技編
 南江堂
 <参考書>
 特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	股関節の軟部組織損傷	筋・腱の損傷及びスポーツ障害
2	股関節の軟部組織損傷	成長期の障害及び加齢による障害
3	股関節の軟部組織損傷	その他の障害
4	大腿部の軟部組織損傷	筋・腱の損傷及びスポーツ障害
5	膝関節部の軟部組織障害	発育期の障害
6	膝関節部の軟部組織障害	靭帯損傷
7	膝関節部の軟部組織障害	半月板損傷
8	膝関節部の軟部組織障害	関節周囲の損傷
9	膝関節部の軟部組織障害	変形性膝関節症
10	膝関節部の軟部組織障害	その他の膝の損傷及び障害
11	下腿部の軟部組織損傷	筋・腱の損傷及び障害
12	足部の軟部組織損傷	靭帯損傷
13	足部の軟部組織損傷	足部の有痛性疾患
14	足部の軟部組織損傷	変形及び末梢神経障害
15	まとめ	総復習